



くすぐられる  
女たち

仲間とレベル上げの  
ために「笑顔沼」に来た  
「女戦士ミア」だったが…

仲間とはぐれ…  
沼にはまり…  
「手」の形をした  
モンスターに  
装備をはがされ  
裸にされてしまった

抜けない…

難易度は高くない  
フィールドって  
聞いてたから  
油断した

っというか  
裸にただけで  
何もしてこない？

恥ずかしいけど…

そして今…  
仲間が集まった  
ところ…

「グラウンドハンド」  
というそのモンスターは  
仲間を呼んでいた…

ズブ…  
ズブ…

ミアの腋の下を  
くすぐり始めた

くはあっ!?

あははは!

ちよっとなに!?

やめなさっ...い...!

つちよ

急な  
くすぐったさに  
襲われ

つちよ

あははっ!

✖  
グラウンドハンドを  
払おうともがいたが

沼にはまった手足は  
ガッチリと固定されて  
動かない

グダ

バダ

その後も…  
今度はお腹のあたりから  
別の個体が現れて  
わき腹をもみもみと  
くすぐり始めた

うひひひい！

もう！

このモンスター…

何が目的なのよ！

ぐひひひい…



おみっ

おみっ

バタ

バタ

グラウンドハンドの  
目的とは…



直接攻撃によるダメージを  
与えるわけではなく

集団で  
性的な刺激などを  
加え続けることで  
対象の体力を  
少しずつ奪い

んひゃあああ!

ぎゃははは!

無理無理い〜!

いい加減に…

+

つちよ ちみっ

つちよ

ちみっ

バタ

ぐあはは!

最終的には  
沼に引きずり込んで  
絶命させることである





はあ

あぁ...っ♡

はあ

んああ!?

どに

じゅ

ぽ

どに

今度は何!?

がが

じゅぽ

がが

気持ち良さを感じつつも  
ミアの体力は少しずつ  
奪われていった

あは...ん♡

やめろお...お  
この変態モンスターっ!



ミアは  
性的な刺激と  
激しくすぐりに  
悶えながら

はあ…ん♡

どに

どに

んひいっ!

こちよ ちみっ

こちよ

ちみっ

がっ

がっ

じゃっ

はあ

苦じら〜!

ぎひひい!

はあ

ぐししし!  
お前たちなんて…

「このは」が魔法で  
焼き払って…  
ぎひひい〜!

仲間が助けに来る  
ことを信じていた

一方ミアの仲間

「魔法使いの  
このは」も…

同じく沼にはまり  
装備を取られ  
魔法も使えない状態で

ちよつと何なの  
このモンスター!?

あははは!

やめてやめて!

ミアちゃん  
助けてえ〜!

きゃははっ!

無防備な足の裏を  
くすぐられていた



敵の仲間が増え  
このはの腋の下に  
手を入れる

あぁっ!?

あははは!

腋はだめえ!

こちよ

こちよ

ぎゃははっ!

くすぐった...

んあははっ!

こちよ

こちよ

初めて受ける  
拘束された状態での  
くすぐり攻撃に

このはは  
今まで受けた  
どの攻撃よりも  
辛いと感じていた

ミアがこののはの  
助けを信じるのと  
同様に

んっ!?!♡

どちゅ  
どちゅ

そっは...♡

やめ...て...♡

いひこー

はあ

お前たちなんか  
ミアちゃんが来たら  
真っ二つに...

ぐひひひー!

はあ

このはも  
ミアの助けを  
信じていた

バダ  
バダ

じゃぶ  
じゃぶ

こちよ  
こちよ

こちよ  
こちよ





誰か…

あんっ!

ああっ!

ぶははあ!

だずげでえ!

はあ

しかしながら当然ながら助けは来ず

ごに

ごに

みみ

みみ

じゅぽ

みみ

はあ  
ぐあははあ!

二人は

失禁しながら

遠のく意識の中

ぐあははあ!

ぐひやひやあ!

死ぬうう!

これ…  
いつまで…

ぎやははは!

はあ

はあ

こちよ  
こちよ

もみ  
もみ

バァ  
アァ  
アァ  
こちよ  
こちよ

軽い気持ちでこの  
「笑顔沼」に来たことを  
後悔した





「名前は何?」

あはあ!?

「所属先は何?」

あはっ!

ちよっと  
やめっ……!

あははは!

「潜入した目的は何?」

くすぐった……!

あはは!

こちよ  
こちよ

とある組織の不正の  
証拠を入手するため

夜間、女スパイとして  
組織への潜入を試みた  
「さき」だったが……

潜入に失敗して  
捕らえられたさきは  
くすぐり尋問を  
受けていた

ガ  
ガ

バ  
バ

「どうだ？  
くすぐったいか？」

「早く答えないと  
いつまでも続くぞ？」

誰がっ…！

あはっ！

がははは！

お前たちに  
喋ることなんか…

ぎゃはは！

「…さうか？」

こちよ

こちよ

バツ

バツ

「やはり情報を  
聞き出すには  
まだ時間がかかるか…」

「いらだろっ」

「時間なら  
たっぷりある」

「そのまましばらく  
笑っている」

んひえあ!?

足い〜!

くひわ〜!〜!

いやああ!

ぐっぐっぐー

その後しばらく  
くすぐり尋問に  
耐えていた「おまの」  
だったけど...

もみもみ

くすぐり

くすぐり



「これならどうだ？」

「ほら、お前の名前は何？」

ぎゃはあっ!?

ぎゃひゃひゃあ!

言えないい〜!

ぐはははあ!

「そうか...  
まだ足りないか」

「おほい」

くすぐられるのが  
好きらしいな

好きじゃない〜!

ぐへあははっ!

いぢよ  
いぢよ

こぢよ  
こぢよ

おみ  
おみ

こぢよ

ガッ

バッ

こぢよ



3日後…

「とき」からの連絡が  
途絶えたため  
追加で潜入を試みた  
「のあ」だったが

あはっ！

あははは！

ちよっとお！

やめっ…

きゃははっ！

きゃはははっ！

こちよ

こちよ

バァ

バァ

ときと同様に  
捕まってしまった

「まったく…  
次から次へと」

「もう分かってるが  
一応聞いておこう」

「名前、所属先、目的は？」

うひいー！

言うもんかあー！

いひひひ！

ぐひえあー！

ええしー！

「すぐには答えない  
ことも知っている」

もみもみ



「お前たちはよほどくすぐられるのが好きらしいな」

んああ!

ぎやはは!

好きじゃないい!

やだやだあ!

ぐわあはは!

誰か助けてえ!

ぐあはは!

こちよ

こちよ

おみ

おみおみ

「いいだろう  
お前も同じ目に  
合わせてやらう」

一方別の部屋…  
3日間くすぐられ  
続けた「さき」は…

もう…  
全…部…

しゃべっ…た  
でしょ…

ぶへあ…

もう…  
やめ…て…

助け…て…  
あへあ…

「そうね…」

聞きたいことは

もう全部聞いたから

そのまま安心して

笑い死になさい」

こちよ  
こちよ

こちよ  
こちよ

こちよ  
こちよ

こちよ  
こちよ

こちよ  
こちよ

キュン♡  
キュウウ♡

あぁ…♡

そんなあ…あ♡

びんわ

ぱつ

こちよ  
こちよ

とある国の  
とある村

ここでは…

村のルールを  
守れない子は

地下室に連れていかれ

あはっ！

ごめんなさいっ！

あははっ！

次はもう…  
時間守るから！

だからやめてえ！

きゃははは！

裸にされてくすぐられる

という罰が与えられる

決まりになっている

きゃははあ！

ちゅ

ちゅ

腋の下を  
くすぐられているのは

ガッ

村で決められた  
門限を守らなかつた  
「こここみ」ちゃん

「門限が6時で帰ってきたのが6時45分…」

「超過分がそのまま罰になるから今回は45分よ」

45…分っ…!?

そんなの…

うひひっ!

耐えられるわけ…

ぎゃひひい!

いししし!

ちゅ

ちゅ

が

が

ちゅ

ちゅ



別の部屋

「いじみ」と一緒に  
門限を破った1歳上の  
友達の「まき」

いやあ〜!

んひひひ!

「いや」じゃ  
ないでしょ?」

「あなたが悪いのよう?」

なんで…

ちょっと遅れただけ…

ぐははは!

ぎひひひ!

「全然反省してないわね」

「いいわ

反省するまで

笑ってなさい」

いぢよ  
いぢよ

クワ  
クワ



くすぐったさから  
逃れようとケーブルを  
引っ張る「まき」だったが

あははは！

きやははっ！

腋の下で激しく動く  
手を払いのける  
ことはできない

足もお！？

きやはああ！

やめっ…

ぎやははは！

「今3分だから  
あと57分よ」

57…っ!?

そんなの…

無理に決まって…

んああはは！



つちよ

つちよ

つちよ

つちよ

バ

バ

バ

もう…っ!

む…りい…!

おしっこ…!

あぁっ…!

「お漏らししちゃった  
みたいけど…  
どう?反省した?」

もう…分かった!

反省…じまじ…たあ!

ぐへあはは!

「まだ反省してないみたいね」

「あなたはここみちゃんより  
1つお姉さんなんだから」

「ここみちゃんを連れ出して  
門限を破ったっていう  
意味ではより罪が重いのよ」

だからごめん  
ってばあ…あはは!

こちよ

こちよ

クワッ

アッ

こちよ

こちよ



「だからあなたには  
ここみちゃんとは  
別にこういう罰も  
受けてもらおうわ」

んああ!?

ああっ……♡  
そこ……は……♡

はあ

はあ

あひひい!

あっ……♡  
ぐしし……♡

「私は一度退室するから  
あと50分の間に  
しっかり反省するのよ」

いひい〜!

ああっ……ん……♡



こちよ

こちよ

じゅぷ

ぐんぐん

しゃアア

こちよ

こちよ

くすぐり  
開始から12分…

「あらあ…

かわいそうに」

「お漏らしするほど  
苦しいのね」

ぶわははは！

ぎゃはは！

もっ…

やめっ…！！

ぐひゃひゃあ！

「でも村の決まりだから  
あと33分頑張っただね」

むうり〜！

ジョホホ

ちよ

ちよ

ガタ

ガタ

ちよ

ちよ

2人はその後  
門限を破ることは  
なかった…



水泳部1年の「はる」は  
コースロープに拘束されて  
くすぐられていた

あははっ!

みき先輩っっ!

なんですかこれえ!?

あははは!

「このプールは指導用よ」

ぎやははは!

「あなたは他の1年生部員と  
比べて練習がたるんでるから  
罰を与えて気合を  
入れなおさせるのよ」

だからって何で  
くすぐり…

ぎやはは!

「くすぐりなら罰にもなって  
傷も残らないでしょ」



みき先輩が手元の  
ボタンを押すと…

っ!?

やめてやめて!

お腹揉まないでえ〜!

いひひい〜!

「はるちゃんは  
お腹も弱いからね」

もみもみ

ぐへあはは!

ぐひひ!

「あとはオートモードで  
タイマーを30分にセットして…」

「悪く思わないでね  
部長の指示だから」

30っ…!?

そんなんっ…

「じゃあ30分後にまた来るわね」

あひひい〜!

いやああ〜!



20分後……みき先輩が様子を見に戻ってくると……

「あらら……くすぐったさでお漏らししちゃったのね」

がああ……

うへへあ……

はあ

もみ

み

もみ

ぐへあ……

ぶへあ……

あはあ……

「それに、オートで残り10分だとくすぐりだけじゃなくなるから安心して」

「でもこの指導を受けた子は大体みんな漏らしちゃうから恥ずかしいことじゃないわ」





「油断し過ぎだよ…  
久々に笑い狂いながら  
反省しなさい」

うへあはは！

いひひひ！

ぎひひひ！

「タイマーは1時間よ」

1じか…!?

嘘でしょ

パキッ

パキッ

いひい！

部長お

そう言っ  
部長は去っていった

もみ

もみ

もみ

残りまだ50分：  
くすぐったさで  
お漏らししてしまいが



部長お〜！

だめえ〜！

ぐひひ〜

んひひい〜！

ぐひひい〜！

その様子を

誰が見るわけでもなく  
ただ一人、笑い悶えていた

パシャ  
パシャ

誰かっ…

つちよ

つちよ

もみ

もみ

もみ

もみ

もみ

助けっ…

ぎゃひひい！

残り40分…オートによる  
性的刺激が追加される



っ!?

うああ…

あっ…♡

あがぁ…♡

はぁ

はぁ

かはっ…

…っ!

パッパッ

パッパッ

つちよ

つちよ

もみ

もみ

ビュッ

きゅん♡

ビュッ

その後の40分間、みきは  
失神と目覚めを繰り返しながら  
二度と下級生には負けないと誓った

目頃から同級生に対して  
いじめを行っていたとして  
とある矯正施設に  
収容された「かな」

おいっ!  
何だこれ!?

あははっ…  
やめっ…!

あはっ…!

あははは!

つちよ

つちよ

バ

バ

ここは収容者をくすぐることで  
罰を与え、反省を促すことを  
目的としたくすぐり矯正施設である





言葉では強がっていた  
「かな」だったが10分後には…

ぐはは！

もうっ…

分かったから…

どうすれば…

ぐひひ！

「分かったではなく  
分かりましただ」

分かりました

ごめん…なさい

ぐあはは！

ぎひひ…！

「まあ良い…  
次のメニューに移ろう」



「次はこれだ…」

「おあっ!?!」

「お…い!」

「今度は何だっ!?!」

「はあ」

「はあ」

「だました…な…あ」

「終わりじゃないのかよ!」

「終わりなんて一言も言っていない!」

「それに、言葉使いがまた荒くなってきたな」

「んあ…♡」

「んっ…♡」

「いい加減やめ…」

「ああ…♡」

「やはりまだ時間をかけて矯正する必要があるしそうだな」



















































































